

教と文化

発行所
財団法人全国修
学旅行研究協会
東京都千代田区
神田神保町 2 ~ 30
電話 (33) 0168
編集兼 永井 照
発行人

盛大な支部結成式

各縣教育界を網羅

野孝司が司会、まづ高橋開会のあいさつと、支部長経過の報告がなされた。ついで永井氏から中央の経過について詳細にあつた。以上を一概が行われた。

全修協への現場の期待は、特に質疑の焦点は旅行あつせんにあつたり、単に研究に止らず、ぜひ修学旅行のあつせんまで

支
部

是非解決された。しかも構成メンバーがいずれも教育界のエキスパートであり教育的実力の所有者故この事業は必ず成功するとの力強い激励の挨拶があつた。かくして組合・県教育庁、各学校長のグループが打つて一丸となつて全修協の組織になり二月六日力強く発足した。

祝賀親会は松本理事（高校長代表）の挨拶で極めてごやかに開かれた。松井指導課長の挨拶は、教育長の挨拶につづいて県の立場からこの会の使命遂行についでの熱烈な要望と決意を

広島県支部長を迎え、改築の成つた山口市湯田温泉の山泉荘で挙行した。会員十九名。

この式は、多数の会員から傾聴に値する話が「祝辞に代えて」述べられた事が一つの特色といえよう。

県教育委員長の全修協に寄せられる大きな期待について、欧州旅行から帰られた上田文史の第一回北海道研修旅行に対する率直な批判、長門高校長の修学旅行に関する量技な科学的調査。山口市大殿小学校長の現実的で有効な指導体験談と統々貴重な意見が出て、結成式は研究会の意義を呈し、協会の前途に多くの希望を与えられた。式後小宴に移り、大に語り散会した。

事業推進の基盤 全国組織完成近し

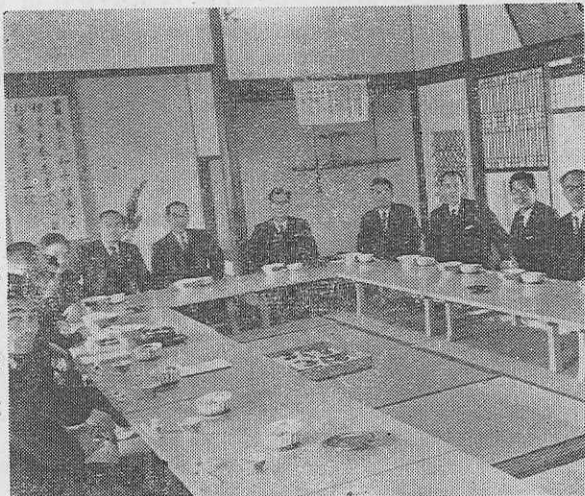
修旅への関心昂まる

昨年十一月二十一日法人発足の全国支部長総会で、全国支部
月十八日福島県支部結成式を成功りに、現在まで、二千数支部
理事長は雪の東北から南國鹿児島まで、万難を排して各支部
実情を知り、その実態を把握し、本部は事務局長を先頭に、支
部樹立に全力を挙げている現状である。

各支部の特色を打ち出した真面目な研究テーマを夫々の地
方に適した角度より熱心にディスプレイを圖わっている
真剣な姿に触れ支部結成式が、ばかりずも研究会のような方
向に伸びて行く状態に、本部側を驚かせ、また喜ばせるような
ことも屢々であった。そういう空気の中から研究の方向や、反
省の貴重な資料が得られ今後の事業発展上大いに役立つた。

二月末現在までに結成された支部は前記の通りであるが、
累議会その他色々な県内事情のため、やむなく三月に発会す
る支部も若干あり、それら各支部長よりは、立遅れたことに
つき非常に残念であるという連絡が本部に届いている。

要するに教育を愛し、それに打ち込んでいる人たちが支部
の推進原動力となり、修学旅行問題に真剣に取組んでいる
この協会の事業に力を尽そうという熱意となつて各支部に漲
つている姿に触れ、本部も大きな期待をこの上に掛けると共に、
支部の熱意に叛かぬ立派な仕事を遂行してゆく決意を新た
にするものである。修学旅行が全国の問題としてとり上げ
られる日も近いであらう。



山口県支部結成式

張 修学旅行の
主 安全性を確保せよ

いよいよ修学旅行期が近づいたが、われわれの最大関心事は何といつても、それが無事故で安全に行つてもういたいことである。

さて、その安全上第一に要請されるものは、何といつても輸送上の問題であらう。この面の解決は学校の日ごろの指導はもちろんであるが、その鍵はとにかくかつて、国鉄、私鉄、バス、船舶会社等の施設と安全対策以外にないといつても過言でない。即ち過去の幾多のいまましい事故の数々は、それ等の營利上の無責任、経営、施設の不完全、従業員の不注意等から起つてゐることである。こうした事例からわれわれは修学旅行の安全対策として、先ず国鉄を含めての輸送業者を万全を期するよう強く要請しなくてはならない。「事故は忘れられたころに起る」のが常例である。これを未然に防止するためには修学旅行時期を前にして、学校、PTA、教委、文部省の教育関係者が中心となり、「大世論を喚起し、輸送業者の幹部を始めとして末端一従業員に至るまで、安全意識を徹底させる」ことが必要である。

しかしこの努力を日本中の学校が実施したとしても一つの限度があり、修学旅行の安全対策は、それだけでは不十分である。そこで、安全対策の徹底を図るために、国鉄、私鉄、バス、船舶会社等の施設と安全対策以外にないといつても過言でない。即ち過去の幾多のいまましい事故の数々は、それ等の營利上の無責任、経営、施設の不完全、従業員の不注意等から起つてゐることである。こうした事例からわれわれは修学旅行の安全対策として、先ず国鉄を含めての輸送業者を万全を期するよう強く要請しなくてはならない。「事故は忘れられたころに起る」のが常例である。これを未然に防止するためには修学旅行時期を前にして、学校、PTA、教委、文部省の教育関係者が中心となり、「大世論を喚起し、輸送業者の幹部を始めとして末端一従業員に至るまで、安全意識を徹底させる」ことが必要である。

しかしこの努力を日本中の学校が実施したとしても一つの限度があり、修学旅行の安全対策は、それだけでは不十分である。そこで、安全対策の徹底を図るために、国鉄、私鉄、バス、船舶会社等の施設と安全対策以外にないといつても過言でない。即ち過去の幾多のいまましい事故の数々は、それ等の營利上の無責任、経営、施設の不完全、従業員の不注意等から起つてゐることである。こうした事例からわれわれは修学旅行の安全対策として、先ず国鉄を含めての輸送業者を万全を期するよう強く要請しなくてはならない。「事故は忘れられたころに起る」のが常例である。これを未然に防止するためには修学旅行時期を前にして、学校、PTA、教委、文部省の教育関係者が中心となり、「大世論を喚起し、輸送業者の幹部を始めとして末端一従業員に至るまで、安全意識を徹底させる」ことが必要である。

学旅行実施教の絶対量はいかんとする
 ことはできないのである。この意味
 から実施する側自体としては、早急
 にこの絶対量を把握する必要がある。そ
 れと共に一方この正確な資料にもとづ
 いて、政府に対して安全対策の施策を
 講じてもらう運動を展開する必要がある。
 政府若くは国鉄は、事故の突発時
 のみ、世論に気兼ねる重大関心だけを
 持つのが常道であるが、この繰返し
 のみでは修学旅行の安全は百年河清を待
 つ類以外ない。われわれは一刻も早く
 この態勢にまで進め日本独自の教育行
 事である修学旅行の事故の撃滅を期し
 修旅の安全性を確保しなければならな
 い。

千葉縣支部

二月六日、千葉市教育会館において、千葉県支部結成式をあげた。

部
.....

ホールにおいて、役員顧問理事等に地元報道機関五名、本部より藤村氏を迎え三千五名の賑や

香川縣支部

新春一月二十一日午後二時高松市天神前銀星旅館において香川

鳥取縣支部

暖かい日であった。前日電報で理事長到着の時間を知らされたので、準備を一切終つて理事長を待つばかりとなつた。

会員は予定通りの各位が何れも

つた。

だより

協の沿革やその性格等について
卒直に、そして将来の希望やら
抱負を語られた。

始めての会合でありながら、愚
問もなぐお互いの疑問もとけて
胸の中につながりてできたよう
であつた。

支部規定の承認や役員の委嘱も
終つたので、予て用意して置い
た簡単な酒宴に移行した。

酒のめどりがよくなつたのか話
に花がさいて賑やかになつた。

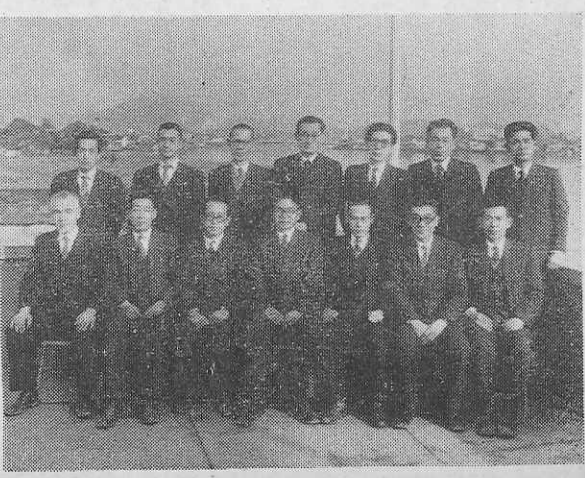
かくていつ果てるともなく、続い

数頁

いた。

結成総会では、第六号議案まで
の全部を決定した。次に将来の
發展を祝して結成式が行われ、
来賓として本県教育界の權威者
多数が出席され、まことに壮觀
であつた。式は経過報告、来賓
祝辞、役員紹介、支部長挨拶の
後、一同乾盃を行い、会するも
の五十名、同志的な交歓のうち
に、楽しい、かつ有意義な式典
を目度く閉じたのである。

(支部長 岡本 仁記)



島根県支部結成式

(裏)

日本といわれ、いつもある位。

もひらめく腹のよう

な白い雲、そして雨

いところは多いが、とくに松江

の郊外に八重垣神社がある。こ

れは八重垣の命が稲田媛をか

生れたことをこの山陰に

くまつていたところ。「八重垣

なあと云うようになった。急行

列車といえは八重垣から大津まで

一本きりで、一列車おくれた

ら二時間もたつた待たねばな

らぬ交通不便。わずかにそれを

補うバスと船。ずいぶん不便な

田舎だ。しかし大阪や東京のあ

まりに多い人にむせかえり、生

命がけの明けくに神話をすり

へらして山陰路にかえつてくる

と、ほつとやれやれと思ふ

電車の路の安全地帯にたどりつ

いた気持だ。

ひとのこころの素直な温さが素

朴な中に不思議

に旅人のこ

ころをえら

る山陰路、文

化にいれゆる

文明に荒らさ

れない処女地

の残る山陰路

どうです一度

山陰路にい

つしやつて

は

温泉といえ

は城崎、湯村

(浜坂)岩井、市街地に温泉のわ

き出る鳥取とその付近の温泉群

浜村、松崎も安易にしををば

すのには良から。東洋一の

ラヂウム温泉として有名な三朝

は上井から二十五分、倉吉の奥

には田舎風の温泉がある。山陰

の名山をのぞんで潮風匂う

皆生温泉につかり、白砂の浜を

散策しながら、はるかに日本海

の孤島隠岐の島々や、半島の先

にひかる美保の灯台に、事代主

の命即ちえびす様のふくふくし

い笑顔を見出すのも一興です

ぞ。孤島隠岐の風光と人情は全

く夢の国に甘美な頃と夢の国、

日本海の孤島隠岐は必ず紹介

したい所だ。イナなど全く薄く

といわれて手づかみでバクツに

何杯もつかみどりの酒を飲んで

(筆者は島根県支部長)



山陰路 紙一平

修旅アンケート

中間報告

すでに半数以上の回答が寄せら
れているが、今回は中間の概略
的な報告にとり、詳細な結果は
全部の集計の終り次第、三号に
て発表する予定である。

一、修学旅行の実施調査の要
望について

調査の要望事項は多種多様であ
るが、一番多いのは時期、日程
の地、宿泊、経費、コースの
設定など、次いで付添教師不
参加生徒、幹事業者、交通機
関、見学の目的、予備調査反省
会などがあげられるが、これ等
は総て事故防止に大きな関心
を寄せている事を表わしている。

二、研究会開催について

ほとんど学校種別に開催を希望
し、時期は実施前が圧倒的に多
かった。

方法としては学校、交通関係、
観光業者、県教育庁などが地域
に集り、講習会や協議会の形式
で行いたい意向が多かった。

三、研究校の指定について

地域別にそれぞれの中高代表
校を、委員会校長会教組等が推
薦指定する。

四、改善向上について

教育効果、経費の軽減、日程
事故防止、団体割引率、幹事業
者、マナーの点、乗物の点、新
しいコース設定、などの諸項目
があげられている。併し個々の

問題より修学旅行の力にユラ
ム展開し統一の一環として
計画することの必要性を痛感し
た。

五、関係業者に対する批判や希
望について

国鉄や旅館に対する不満が圧倒
的に多く、バス輸送や幹事業の
不満が次いでいる。バスガイドの
評判が良く、業者に対しては教
育的なサービスを望み、業者と
学校との間に委員会を設けて諸
問題を解決したという意見も
あった。国鉄に対する修旅の特
別輸送計画の実施を要請する事
が急務と思われた。

六、修旅の指導テキストにつ
いて

ポケット形のもので、地域別、
学校種別にし、内容は教科的
解説を主体とし、団体指導や注
意事項、コースと具体例を挿入
したり、事前事後の指導の可能
なものを、見学箇所、教育価値
を明示してほしいなどの意見や
教師用のテキスト頒布の意見も
あった。

七、中高の修旅コースについて

全国的にコース選定の悩みが多
く、従来の観光コースをどう
しようしている学校が大部分であ
る。

八、信用ある幹事業者について

国鉄公認の全国組織をもった大
きな業者が評判がよかった。こ
れは幹事業者が理解されて来た

研究

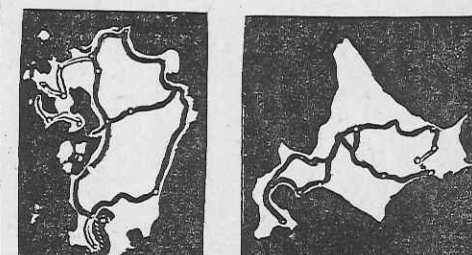
修学旅行の
心理学的考察(中)

山石 一

児童生活の知覚意の自然な
心理的発達と環境の新陳代謝
を原則とする社会的要請とか
ら学校という組織が生れた。
この組織は人間完成の目的を
もつ場としても道としても能
率的でもあり経済的でもある
ので子女を集団せしめて学習
させ、これに指導を与えるこ
う今日の学校形態の必要性
は公認も社会もひとしくこれ
を認め、随つて多額の財を投
じ、方法を講じ、効果の究極
は教育は社会の盛運をもたら
す重要な基盤であるというこ
とになっている。

他面児童生徒が修得する対
象となるものは実に多岐に亘
る生活文化財で、その中にお
いても広さにおいても、はた
また質からみても量からみ
ても時代の進展に伴い余りにも
沢山の文化財が、その悉くを学
習資料として取扱つていくこ
とは不可能である。そこで知能の
増進に好適するよう心理発達
段階に即する条件から
と将来に立つて生活するの
に必要な社会的文化財を理解

第2回教育見学旅行



申込
殺到

本年度の参加
申込みは予想
以上に高
知果ては募集
目標をはるか
に突破した。
本部では万般
の準備を完了
し先方の参
加をお待ちし
ている。

今の子どもの成人したこ
ろには、彼らは、われわれがバス
に乗るのと同じく、航空機
に乗るであろう。

その子どもを教育する先生は、ス
ピードを口にしたがらなく
は空を飛んだ体験は持つていな
い。そこで宇宙時代第二年に支
部が試みる一つの仕事がこの
述べる「飛行機に乗ってみる
会」である。

毎月一回、土曜の午後若国飛行
場を飛立って、中国、四国、九
州の山河を遠望しつつ瀬戸内海
を横断して大分に着陸。別府に
一泊、一本つて旅行談話を
映かせ、日曜の半日を自由に清
遊あるいは静養して夕刻帰宅す
る。これは山口支部ですでに実
施している計画である。

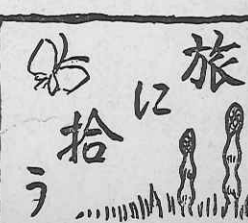


ダグラス DC-3 旅客機

事務局だより

昨年末より各地支部結成式のた
め理事長、事務局長は文字通り
東奔西走で席温まる暇さへなく
留守を預る事務局も財務室の馬
場理事と、総務の金谷が流転
に冒されいメンバーで各支部
からの連絡にも充分な処置がと
れず、大変御迷惑をかけており
ますことをこの欄をかりておわ
び致します。

一月以降の主なできごとをお知
らせたいと一月八日には
大阪で婦人部結成の準備会が持
たれました。



旅に拾う

中心に婦人部の力強い一歩を踏
み出しました。

また一月中に発行予定の「旅と
文化」第二号も発行延期のやむ
なきに到り各支部の期待に背
き申し訳なく思っております。

二月に入り事業部に地理のベテ
ラン山本氏を迎えてその専門
的なアイデアと手腕の發揮によ
りこの面の今後の発展につて
は支部の方々のご期待に添い得
ることと思ひます。

研修旅行の各県参加人員調査の
結果、一月末現在ではまだ確定
的な数字は不明で、この件につ
いては二月末を以て一応中間報
告として全国の状況をお知らせ
します。十九日午後には事務局
の事務打ち合会を持ち、事務局
の指針を示され全員で討議
し、事務分掌を明確にしました。

「旅と文化」第二号の発行のた
め各支部に原稿の依頼をしたと
ころ続々と集まり本部に嬉し
い悲鳴をあげさせており、二月
中には発行できる見通しもつき
安心したところです。

理事長からは「支部が盛上つて
いるのには本部はたのんでいる」
といふお言葉ばかり頂戴して
おりますが三月からは本部の事
務分掌も再編成し、支部の御期
待に背かぬようやつて行く積り
です。そこで本部からのお願い
ですがこちらから依頼した調査
までにお願ひしたいのでありま
す。調査結果を纏めるにも纏め
ようがなく中間報告ばかりで最
終結果といふものが仲々だし難
く、催促状だけでも仲々馬鹿に
ならない事務量と経費がかかり
ますので、この点御協力下さ
るようお願いいたします。

この「旅と文化」も段々と肩の
凝らない読物も載せて、楽しみ
ながら向か研究に役立つよう
方向に進めて行きます。各スタ
ッフは無い智慧を絞って合意な
がら夜おそくまで頑張つておりま
す。

(藤村、山本記)

折角皆様
から貴重
な原稿を
頂きなが
ら紙面の
都合で全
部掲載できなかつたことを深く
お詫びいたします。山石先生の
御研究、各支部だよりや写真、
随筆、などは順次掲載してゆ
き、皆さまの機関紙としてよ
ういものになってゆく心組で
す。どうか今後共々つて御投
稿下さるようお願いいたしま
す。

大急ぎで編集しましたので、十
分な推敲もできず、誤字や脱字
も多々あることと思ひますが、
編集者の不才のためと御寛容
を願ひ、次号から大いに勉強
いたします。

(藤村、山本記)

編集
後記